

熊本・益城町東無田集落 復興まちづくりプロジェクト

第1回 まちづくりワークショップ

発行者：

中央大学理工学研究科都市人間環境学専攻
環境デザイン研究室
〒112-8551 東京都文京区春日 1-13-27
2号館 2811・2817号室

2017. 05. 30 発行 No.1

『温かな手と手をつないで！』 熊本県益城町東無田集落にて、 復興に向けたまちづくりワークショップが開催されました。

震度7の揺れを、二度、記録した熊本地震から約1年。2017年5月14日に、熊本県益城町東無田集落の方々、行政、大学（熊本県立大学・中央大学理工学研究科）、復興サポーターのみなさんによるワークショップが開催されました。今回のワークショップは、東無田集落がすみやかな復興を目指して、今後どのようなまちにしていけるかを考えていくためのものでした。

益城町は、町の直下が震源となり、約半数の家屋が全半壊しました。東無田集落は益城町の中でも特に被害が大きく、現在でも多くの住民が仮設住宅で生活しており、新しい住まいの確保や農業の復活といった問題を抱えています。しかし、瓦礫の撤去作業はほぼ終わり、住民の方々は様々な活動をはじめ、着実に復興に向けて歩み始めています。

ワークショップでは、4つの班に分かれてグループワークを実施しました。まず、東無田集落の「宝もの」や「課題」を出し合い、それを踏まえ、今後どのようなまちにしたいかという夢をそれぞれの班で考えました。「宝もの」としては、集落の素晴らしいコミュニティが形成されていること、豊富で綺麗な地下水が存在すること、庭を形づくった庭石や庭木が多く残っていることがあげられました。一方、「課題」としては、災害公営住宅をどこに建てるかという問題や、子供を見守る大人の減少、集落に公園が存在しないこと、これからの生活を支えていくための、なりわいを確立する必要があることなどがあげられました。

最後の発表では住民の方々が、これらの「宝もの」を生かし、「課題」を解決できるようなまちの将来像を提案しました。それぞれの班から、強いメッセージ性をもった新しい東無田集落の理想像が発表されました。住民の方々からは、自分たちも気づかなかったまちの魅力を発見できた、さらなる復興に向けてワークショップで出た4つの理想像を掛け合わせていきたいといった声をいただくことができました。

環境デザイン研究室では、熊本県益城町東無田集落の復興サポートを続けていきたいと思えます。今回のワークショップの様子は、6月18日（日）の午前10:20よりNHK総合で放送予定です。



A班 自然豊かで安心して子育てできるまち



B班 水とそだつまち



C班 裏道を散策できる東無田



D班 よんなっせ!! おじょうさんが見守る庭園集落 東無田



A班 これからの子供のための理想像を話し合いました



B班 きれいな地下水を生かした公園づくりを提案しました



C班 魅力的な裏道を活用したコミュニティづくりを考えました



D班 魅力の継承だけでなく現状の問題を解決するための提案をしました